

(5) 研究内容および実施方法

内 容	方法・時間数
当面する社会教育行政上の諸問題	講義・討議 3
本県社会教育の現状と課題	〃 4
社会教育における対象とその学習領域	〃 5
社会学概説	〃 3
衛生教育における社会資源の活用	〃 4
パーソナリティ構造とその形式	〃 3
親子関係の心理	〃 3
統計の見方・考え方	〃 3
社会教育施設の機能と配置	〃 3
学級・講座における教育課程の編成	講義・演習 9

(6) 日 程

日	午 前	午 後	夜 間
9/6	開会式	当面する社会教育行政上の諸問題 (湯上)	研究協議
9/7	本県社会教育の現状と課題 (佐藤)	社会教育における対象とその学習領域 (岡本)	〃
9/8	学級・講座における教育課程の編成 (課員)	社会学概説 (菅野)	レクリエーション
9/9	統計の見方・考え方 (折橋)	社会教育施設の機能と配置 (丹野)	研究協議
9/10	パーソナリティ構造とその形成 (古筈)	親子関係の心理 (工藤)	〃
9/11	衛生教育における社会資源の活用に (小倉)	閉会式	

(7) 研究会に作成した資料

- ① 昭和42年度社会教育主事研修会要項
- ② 市町村社会教育主事研修会実施報告書

(8) 効 果

社会教育主事の現職教育として、合宿による長期研修の機会をもち、講義・研究討議等をとおして熱心な研究が行なわれた。

これによって、受講者の資質の向上と指導力の強化がはかられ、地方における社会教育の振興上大きな効果をあげ得たと思われる。

4 社会教育委員研究協議会

(1) 目 的

社会教育委員の性格、任務および活動上の諸問題ならびに社会教育の画期的振興方策について研究協議を行ない、もって本県社会教育の振興に資する。

(2) 期日・会場・参加者数

- ① 期 日 42. 7. 12. ~13.
- ② 会 場 福島市飯坂町 県婦人会館
- ③ 参加者数 69名

(3) 講 師

福島大学教育学部長 平井 博
 福島県教育庁社会教育課長 佐藤 正義

(4) 参加対象者

市町村社会教育委員
 市町村教育委員会教育長

(5) 内 容

- ① 研究主題
社会教育の画期的振興をはかる具体策について
- ② 分科会研究協議題

- ・ 青少年教育の画期的振興をはかるにはどのようにしたらよいか。
- ・ 成人教育の画期的振興をはかるにはどのようにしたらよいか。
- ・ 社会教育施設、設備を拡充するにはどのようにしたらよいか。
- ・ 社会教育の指導体制をどのように整備したらよいか。(教育長部会)

(6) 効 果

社会教育委員が社会教育の現状を具体的に検討し、社会教育委員の任務として、諮問的内容と指導内容について認識をさらに深め、市町村社会教育計画についてもじゅうぶん理解を深め、更に、教育長部会においては社会教育指導体制の問題を検討し、今後の社会教育振興充実にその活動が大いに期待される。

4 社会教育研究協議会

(1) 目 的

社会教育行政関係者と社会教育行政に関連する行政関係者の参加を得て、相互の理解を深めるとともに、社会教育について総合的な研究協議を行ない、もって、社会教育の振興および地域の発展に寄与することを目的とする。

(2) 期日・会場・参加者数

期 日	会 場	参加者数
42年9月6日	保原町公民館	140名
9月8日	三春町立三春中学校	130名
9月12日	浪江町民体育館	162名
9月14日	柳津町民体育館	150名

(3) 講 師

東洋大学助教授 岡本 包治
 福島大学教授 堀口 知明
 宮城教育大学教授 菅野 正
 福島県教育庁社会教育課長 佐藤 正義

(4) 参加対象

市町村長、市町村議会議長、市町村教育委員会教育長、公民館長、小中学校長、および関係職員ならびに教育委員、社会教育委員、公民館運営審議会委員、明るく正しい選挙推進協議会委員

(5) 内 容

- ① 研究協議の主題
社会教育とこれに関連ある行政機関団体が行なう教育活動をどのように編成したらよいか。
- ② 分科会協議題
 - ・ 家庭教育の振興、青少年健全育成のための教育活動をどのように編成したらよいか。
 - ・ 明るく正しい選挙のための教育活動をどのように編成し推進したらよいか。
 - ・ 貯蓄やかしい消費をとおして、家庭生活の合理化のための教育活動をどのように編成し推進したらよいか。
 - ・ 地域産業発展のための教育活動をどのように編成し推進したらよいか。